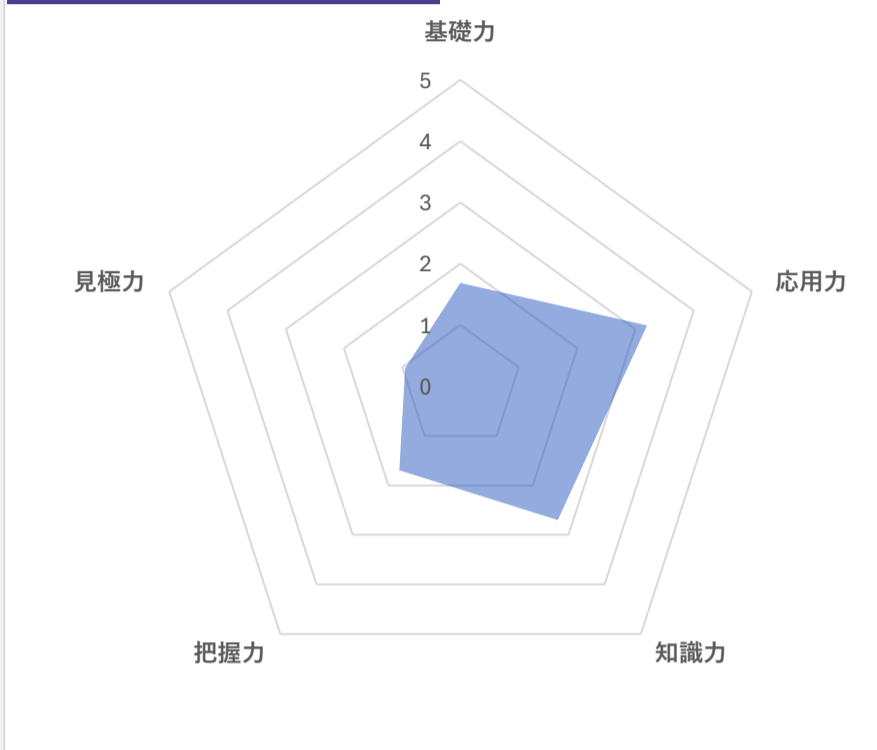


総合分析

試験区分	II期
------	-----

制限時間	70分 (理科 2科140分)	大問数	全 4 問
------	-----------------	-----	-------

合格に要する能力 (5段階)



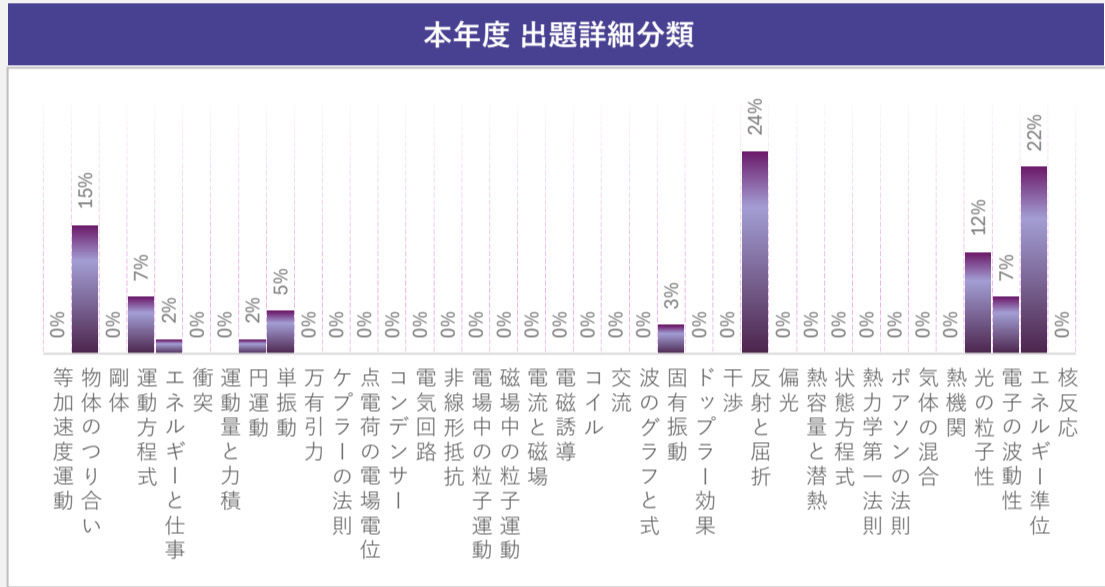
合格に要する能力 (5段階)		
基礎力	1.5	原理についての理解
応用力	3.0	演習経験による慣れ
知識力	2.5	用語を正確に覚えているか
把握力	1.5	臨機応変に状況を把握する力
見極力	0.8	解きやすい問題を選択する力

特記事項	グラフ描画問題があった
------	-------------

出題分野	
力学	31%
電磁気学	0%
波動	28%
熱力学	0%
原子物理	41%

本年度 解答形式
答えのみ記述 100%

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	浮力と単振動
第 2 問	水素原子のボーアモデル
第 3 問	レンズと像
第 4 問	X線



特殊問題の有無	近似計算なし	グラフあり
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算あり

総合評価			
難度	1.8	最難を 5 とする問題自体の難度	やや易しい
分量	40分	完答に要する時間 (制限時間は70分)	少ない
一次合格に必要な正答率 (予想)			87%
極めて高い正答率を要する			

入試の特徴と対策
 ▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。

入試から見る 大学が求める学生像
 特有なクセやわかりにくさの全くない洗練された問題で構成されている、完成された入試である。標準的な問題集による演習経験だけで満点を取ることができる。受験生には厳しい本質を問うような鋭い出題はない。試験時間にもかなり余裕があるため、苦手な問題から逃げることはできない。多少の計算ミスは仕方ないが、基本的には満点ゲームである。多少時間がかかっても状況を的確に把握し、ヒューマンエラーを最小限に、幅広く学んだことを正確に行使する能力を重視していると考えられる。